

日本光学会平成 20 年度第 3 回常任幹事会議事録

日 時： 2009 年 3 月 19 日(木) 13:30~16:00

場 所： 応用物理学会会議室

参加者： 谷田貝幹事長，他 20 名

議 事：

1. 第 186 回幹事会議事録の確認

- ・第 186 回幹事会議事録は承認された。

2. 報告事項

2-1. 「光学」関連報告

(1) 「光学」編集報告

- ・平成 20 年度「光学」の発行状況と特集題目が報告された。研究論文の投稿数が減少傾向にあることが示され、対策が必要であることが報告された。

2-2. 「OPTICAL REVIEW」関連報告

(1) 「OPTICAL REVIEW」編集報告

- ・2008 年 1 月から 2009 年 2 月までの掲載および投稿論文状況が示された。2008 年の掲載論文数は、特集号がなかったために減少したことが報告された。一方、2008 年の投稿論文数は増加し、その過半数は海外からの投稿であることが報告された。
- ・OR 用 Web 投稿審査システムの導入を検討していることが報告された。この導入により、経費削減や審査状況管理の容易化を実現できることが報告された。導入の方向で検討を進めることになった。
- ・受理された論文から随時、Web 公開することを検討していることが報告された（紙版は従来通り隔月発行）。実施の方向で検討を進めることになった。

(2) 「OPTICAL REVIEW」出版報告

- ・OR へのアクセス数が示され、おおむね順調に推移していることが報告された。
- ・OR Vol. 16 No. 2 から、オンライン版のみカラー図版（紙版は白黒印刷）に移行したことが報告された。カラー印刷はしないため、掲載費の追加はないことが報告された。

2-3. 講演会関連報告

(1) 第 34 回光学シンポジウム進捗報告

- ・講演プログラムが確定したことが報告された。
- ・光学シンポジウム講演者に対して、発表内容を OR へ投稿するよう勧誘を行うことが報告された。

(2) カラーフォーラム JAPAN 2008 結果報告

- ・2008 年 11 月 25 日~27 日に工学院大学にて開催され、

参加者は 131 名であり、前年度に比べて 45 名減少したことが報告された。

(3) Optics & Photonics Japan 2008 結果報告

- ・収支の最終報告がなされ、赤字であることが報告された。

(4) 第 35 回冬期講習会結果報告

- ・2009 年 1 月 22 日~23 日に東京大学にて開催され、参加者は 63 名で昨年度より減少したが、盛況であったことが報告された。
- ・学生の参加者が増加し、参加者数の 25% であったことが報告された。

(5) 平成 20 年度光学五学会関西支部連合講演会結果報告

- ・2009 年 1 月 31 日に大阪市立大学文化交流センターホールにて開催され、参加者は 82 名であり盛況であったことが報告された。

(6) 平成 20 年度関西講演会結果報告

- ・2009 年 1 月 27 日に島津マルチホール（大阪市）にて開催され、参加者は 64 名であり盛況であったことが報告された。

(7) 第 4 回光応用新産業創出フォーラム結果報告

- ・2009 年 2 月 27 日に慶應義塾大学にて開催され、参加者は過去最多の 114 名であり、盛況であったことが報告された。

2-4. その他報告事項

(1) 協賛依頼について

- ・6 件の協賛依頼が承諾されたことが報告された。

(2) 会員動静について

- ・2 月に個人会員が 1 名減少、特別会員が 7 名増加し、2 月末において会員数が 1840 名であることが報告された。

(3) 収支計算書について

- ・2009 年 1 月 1 日から 2 月 28 日までの収支が報告された。

(4) 光学会ホームページについて

- ・2009 年 1 月 21 日から 3 月 10 日までの日本光学会ホームページへのアクセス数が示され、通常通りであることが報告された。
- ・入会のしおり（PDF ファイル）を「日本光学会入会のご案内」ページにリンクしたことが報告された。
- ・どのページからでも「Contact」ボタンにより「日本光学会への問い合わせ」ページにアクセス可能にしたことが報告された。

(5) 500 人会員増計画進捗報告

- ・日本光学会開催の各イベントにおける会員増施策の実施状況が報告された。

(6) 研究グループ活動報告

- ・平成 20 年度の 12 研究グループにおける事業内容および収支決算が報告された。
- ・平成 21 年度の 13 研究グループにおける事業計画および収支予算が報告された。
- ・8 つの研究グループが申請している平成 21 年度補助金は承認された。

(7) 平成 21 年度活動年間計画

- ・平成 21 年度日本光学会年間計画（案）が示され、幹事会の日程は承認された。

(8) 賛助企業への参加券配布について

- ・賛助会員数増加策として賛助会員に配布する日本光学会主催イベントへの参加券の名称を「行事参加割引券」としたことが報告された。

(9) OSA との協定について

- ・日本光学会とアメリカ光学会（OSA）とにおける独自活動を明記した協定（案）は、応用物理学会理事会にて審議中であることが報告された。

(10) 電気通信大学レーザー新世代研究センターの共同利用・共同研究拠点化について

- ・文部科学省の共同利用・共同研究拠点の認定制度に、電気通信大学レーザー新世代研究センターが応募したく、日本光学会に推薦を依頼されたことが報告された。日本光学会として推薦する旨回答したことが報告された。

(11) 広報活動について

- ・平成 20 年度以降の研究グループ活動報告を日本光学会ホームページに掲載することになった。

3. 審議事項

(1) OIE '09 開催に向けた国際協力支援金の申請について

- ・OIE '09 の支援を目的に申請された国際協力支援金は、日本光学会の内規に照らし合わせた結果、妥当ではないと判断され、承認されなかった。

(2) 総会資料（事業報告・会計報告）について

- ・平成 20 年度事業報告および平成 21 年度事業計画の総会資料が報告された。
- ・平成 20 年度収支決算の総会資料が報告された。

4. その他

(1) 「光学」の JST アーカイブ化に関する件

- ・旧機関誌「光学ニュース」および現機関誌「光学」のアーカイブを実施する上で、科学技術振興機構（JST）と覚書を締結する必要があることが説明された。覚書に関する担当幹事が決まった。

第 187 回幹事会

2009 年 5 月 19 日（火）に、応用物理学会会議室において開催されました。第 3 回常任幹事会議事録確認、「光学」編集報告、「OR」編集・出版報告、第 34 回光学シンポジウム進捗報告、OPJ 2009 進捗報告、第 35 回冬期講習会結果報告、カラーフォーラム JAPAN 2008 結果報告、カラーフォーラム JAPAN 2009 進捗報告、第 4 回光応用新産業創出フォーラム結果報告、産学官連携推進事業進捗報告がなされました。また、協賛依頼、会員動静、収支計算書、日本光学会ホームページ報告、500 人会員増計画進捗報告、会計手順説明がありました。さらに、光学論文賞選考委員長、光学論文賞募集要項、奨励賞選考委員、幹事選挙について審議がなされました。また、国際協力支援金申請、日本光学会 news への掲載基準の見直し、OSA・EOS・ROS との協定、広報マニュアル、2009 アカデミックロードマップについて説明がなされました。なお、詳しい幹事会議事録は第 38 巻第 9 号に掲載予定です。

平成 21 年度光学論文賞受賞候補者の募集

応用物理学会では光学の分野における優秀論文の著者に対し、下記のごとく光学論文賞を贈っています。本論文賞は 50 年の歴史をもち、光学奨励賞とともに日本光学会の活動度を示す重要な指標の役目を果たしております。光学論文賞規定については本号 401 ページをご覧ください。光学論文賞は公募に応じた自薦、他薦の候補者から選考されます。奮ってご推薦ください。

受賞対象者：原則として表彰の年に満 40 歳未満の日本光学会会員あるいは応用物理学会会員であり、本年 8 月末日までの 1 年間に発行された学術刊行物に発表された光学に関する原著論文の第 1 著者。詳細は光学論文賞規定をご覧ください。

提出書類：候補者の氏名、会員番号、生年月日、満年齢（公募締切日における）、勤務先、勤務先所在地、自宅住所、連絡先、電子メールアドレス、候補論文（1 編）および関連論文名のリスト、推薦理由（自薦他薦を問わず、論文の特徴、優れた点等を 1000 字以内でわかりやすく記す）、候補論文別刷 10 部（コピー可、関連論文があれば 2 編以内でそれらの別刷またはコピーを 1 編につき 10 部ずつ添付）、他薦の場合は推薦者の氏名、勤務先、勤務先所在地、連絡先、電子メールアドレス。

書類提出期限：2009 年 9 月 11 日（金）必着

提出先：日本光学会庶務幹事 橋本信幸

〒359-8511 所沢市下富 840

シチズンホールディングス(株)開発部

電話 04-2943-5330 Fax 04-2943-0093

E-mail: ronbun09@heart.ocn.ne.jp

結果は「光学」第39巻第3号において発表されます。

平成22年度幹事立候補者募集

平成22年度新幹事選出(任期2年、毎年半数交代)の候補者として、本会の運営に熱意ある会員の方々の立候補を募集いたします。役員選挙その他に関する内規は、本号400ページをご覧ください。候補者は、自薦・他薦を問いませんが、他薦の場合は本人の承諾を必要とします。候補者の推薦理由をつけてご推薦をお願いします。立候補照会および問い合わせは庶務幹事の厚海までお願いします。

立候補締切：2009年8月7日(金)

問合せ先：日本光学会庶務幹事 厚海広道

〒243-0460 海老名市下今泉810

(株)リコー 画像エンジン開発本部 Md 開発センター

光学 Md 開発室光学 Md 開発二グループ

電話 046-292-6794 Fax 046-231-9047

E-mail: osj_somu@heart.ocn.ne.jp

Optics & Photonics Japan 2009

期 日：2009年11月24日(火)～26日(木)

場 所：朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター(新潟市中央区万代島6-1, <http://www.tokimesse.com/>)

主 催：日本光学会

問合せ先：Optics & Photonics Japan 2009 事務局

(株)アドスリー内

〒164-0003 東京都中野区東中野4-27-37

電話 03-5925-2840 Fax 03-5925-2913

詳細は第38巻第6号の綴じ込み案内またはホームページ(<http://www.opt-j.com/opj2009/>)をご覧ください。

カラーフォーラム JAPAN 2009 論文募集

人間の色覚に訴える「色」というものは、実に多様な側面をもってあります。あるときは判断弁別的手段として、あるときは情報伝達的手段として、また感動や好悪の感情を引き起こす源としての性格も備えています。だからこそ、色の研究分析は、物理学、心理学、医学、生理学、芸術学など、さまざまな立場からなされているわけです。このように多種多様な側面からみた色に関する知見、研究成果を持ち寄り、お互いに研鑽し合うことは、大変有意義だといえるのではないのでしょうか。カラーフォーラム JAPAN は物理学からアートまで、広範囲にわたる学際的

(Interdisciplinary) な色に関する知識交換の場を提供することを目的といたします。

期 日：2009年11月3日(火・祝)～5日(木)

場 所：産業技術総合研究所臨海副都心センター(東京・お台場)

主 催：光学四学会幹事会(日本光学会ほか)

募集論文内容：口頭またはポスター発表。(1)色覚、(2)表色・測色、(3)照明、(4)、色彩画像入力装置、(5)色彩情報処理・評価・表現、(6)色彩画像出力装置、(7)色彩材料、(8)色彩心理、(9)色彩計画・色彩調、(10)カラーユニバーサルデザイン、(11)色彩文化、(12)色彩教育。

講演申込方法：A4判1枚に、①題目、氏名、所属、共著者名、②論文のアブストラクト(500字程度、図表も含む)、③上記希望分類、発表形式の希望、所属学協会、および④連絡先(所在地・電話・Fax・E-mail)を下記あてE-mail(またはFax)でお送りください。

申込期限：2009年7月24日(金)

論文集原稿締切：2009年10月16日(金)

申込先：カラーフォーラム JAPAN 事務局

Fax 03-3565-7716 E-mail: ren-net@vega.ocn.ne.jp

<http://www.ren-associates.com/ColorForumJ/cfp/>

第10回情報フォトニクス研究グループ研究会(秋合宿)

自由空間に解き放たれた光は、ナノ・ミクロの微小スケールから、数100km・数光年、それ以上の壮大なスケールまで、多彩な振る舞いをみせます。このような自由な光の工学的応用が自由空間光技術といえます。今回の情報フォトニクス研究会では、自由空間光技術を用いて創られたさまざまなスケールのシステムに注目し、自由空間光技術がいかにうまく使われているかを俯瞰するとともに、そのセンスと発想について深く掘り下げ、研究者・技術者・学生などの立場や研究分野の垣根を越えた議論の場を提供します。

テーマ：自由空間光技術でシステムを創る

期 日：2009年9月27日(日)～29日(火)

場 所：ウッディパル余呉 森林文化交流センター(滋賀県伊香郡余呉町中之郷, <http://www2.cny.ne.jp/wp-yogo/>)

主 催：日本光学会情報フォトニクス研究グループ

プログラム：

<9月27日(日)>

16:30～17:30 研究紹介

20:00～ 研究紹介の続きおよび討論会

<9月28日(月)>

9:00~12:00 ドクター講演会

13:10~14:30 「光衛星間通信技術―「きらり」の成果と将来の宇宙通信インフラへの展開―」山川史郎 (JAXA)

14:40~15:40 「時間相関カメラ (仮題)」来海 暁 (大阪電通大)

15:40~16:40 「電界カメラ (仮題)」笹川清隆 (奈良先端大)

17:00~18:00 「空間位相制御を利用した光演算・計測システム」渡邊恵理子 (日本女子大)

20:30~ 学生参加者によるポスターセッション・有志によるデモセッション

<9月29日(火)>

9:00~ ディスカッション

11:00~11:50 国際会議報告およびワーキンググループ報告

参加費: 27・28日ともに宿泊: 一般20,000円, 学生12,000円. 29日のみ宿泊: 一般16,000円, 学生10,000円.

申込締切: 2009年8月10日(月)正午(下記申込先にメールにて)

予稿締切: 学生参加者には, ポスター発表および予稿の提出をお願いします. 締切は8月31日(月)正午です. 詳細は追って連絡します.

申込・問合せ先: 大阪大学 香川景一郎

E-mail: ipg-yogo2009@lip.ap.eng.osaka-u.ac.jp

<http://www.i-photonics.jp/meetings.html> (最新の情報はこちらからチェックしてください)

レーザ顕微鏡研究会第35回講演会 (SLM 35)

メーカー各社の最新技術情報, 一般講演, ならびに「Challenge to the Limit/限界への挑戦」を主題としたシンポジウム講演です.

期 日: 2009年7月14日(火)

場 所: 理化学研究所鈴木梅太郎記念ホール (埼玉県和光市)

主 催: レーザ顕微鏡研究会

共 催: 日本光学会ほか

参加費: 会員2,000円, 賛助会員・学生1,000円. 当日参加可能ですが, ホームページより事前参加申込をお願いします.

懇親会: 17:30~ 参加費無料

問合せ先: 東海大学医学部教育・研究支援センター細胞科学部門内

電話 0463-93-1121 内線2581 Fax 0463-91-1370

Email: jslm-conference@sml.me.se.osaka-u.ac.jp

<http://sml.me.es.osaka-u.ac.jp/jslm/>

駒場博物館夏期特別展「小穴純とレンズの世界」展

小穴純(1907~1985)は, 東京帝国大学・東京大学・上智大学に勤務した物理学者で, おもに光学実験の分野で活躍しました. 小穴の研究を振り返りながら日本の光学および光学技術の歩みを概観し, あわせて光学の諸原理を身近に経験できる実験・機器を紹介します.

期 間: 2009年7月18日(土)~9月23日(水・祝)

開館時間: 10:00~18:00 (入館は17:30まで). 火曜日休館, ただし9月22日は開館. 会期中, 公開講演・実験イベント・ギャラリートークも開催予定.

場 所: 東京大学大学院総合文化研究科・教養学部 駒場博物館 (東京都目黒区駒場3-8-1)

主 催: 東京大学教養学部・大学院総合文化研究科 駒場博物館自然科学博物館

問合せ先: 東京大学大学院総合文化研究科・教養学部 駒場博物館

電話 03-5454-6139 Fax 03-5454-4929

Email: komabamuseum@adm.c.u-tokyo.ac.jp

<http://museum.c.u-tokyo.ac.jp/>

日本光学会 news の掲載申込み先:

〒441-8580 豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1 豊橋技術科学大学4系中内研究室

伊藤光学工業(株)共同研究員 宮澤佳苗

電話 0532-44-6765 Fax 0532-44-6651 E-mail: k-miyazawa@itohopt.co.jp

なお, 掲載申込みは原則として発行日(10日)から2か月前の15日まで, 開催日が1~10日の場合は, 開催日の3か月前の15日までをお願いします.

掲載にあたっては, 「日本光学会 news」および「光学関連会合予定」の掲載基準 (<http://annex.jsap.or.jp/OSJ/kogaku/news-keisai.html>) をご確認ください.

日 本 光 学 会 平 成 21 年 度 幹 事 (*常任幹事)

幹事長：	谷田貝豊彦*	(宇都宮大)		
副幹事長：	志村 努*	(東京大)	加藤 純一*	(理研)
前幹事長：	伊東 一良	(大阪大)		
庶務幹事：	厚海 広道*	(リコー)	橋本 信幸*	(シチズンホールディングス)
	森 雅彦*	(産総研)	向井 香織*	(ニコン)
	佐々木雄三*	(NTT)	飯塚 隆之*	(HOYA)
	宮澤 佳苗*	(伊藤光学工業)	安田 晋*	(富士ゼロックス)
	渡邊恵理子*	(日本女子大)		
『光学』編集幹事：	梅田 倫弘*	(東京農工大)	山口 雅浩	(東工大)
『Optical Review』編集・出版幹事：	植田 憲一*	(電通大)	佐々木修己*	(新潟大)
国際協力幹事：	西村 吾朗	(北海道大)	津田 裕之	(慶應義塾大)
産学協力幹事：	藤川 久喜	(豊田中研)	石樽 崇明	(慶應義塾大)
将来問題担当幹事：	佐藤 学	(山形大)	戸田 泰則	(北海道大)
電子化担当幹事：	松坂 慶二	(コニカミノルタオプト)	河野 裕之	(三菱電機)
事業・企画担当幹事：	辻 俊彦	(キヤノン)	豊田 光紀	(東北大)
	吉澤 達也	(金沢工大)	岡野 英明	(東芝)
	庭山 雅嗣	(静岡大)	忠永 修	(NTT)
	南 功治	(シャープ)	湯浅 友典	(室蘭工大)
	山本 裕紹	(徳島大)	岡本 卓	(九州工大)
	小野 浩司	(長岡技大)	大出 寿	(オリンパス)
	大八木康之	(大日本印刷)	式井 慎一	(パナソニック)
	高橋 信明	(防衛大)	高原 淳一	(大阪大)
	高松 衛	(富山大)	陳 軍	(東京工芸大)
	杉浦 忠男	(奈良先端大)	栗辻 安浩	(京都工芸繊維大)
